

今シーズンのインフルエンザ対策



今シーズンはインフルエンザが流行するかどうか分かりません。(私はあまり流行しないのではないかと思っています。)

予防は予防接種

今シーズンも、昨シーズンと同様なウイルスの流行が予想され、ワクチンもほぼ同様なものが用意されています。

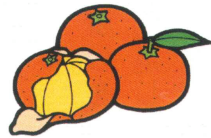
インフルエンザの症状は普通のカゼとあまり変わりません
①急に熱がでる
②全身がだるい (三七、五度以上)

③ふしぶしが痛い、筋肉痛がある
が特徴です。

インフルエンザかどうか検査する

鼻腔(鼻の穴)や咽頭(のど)のぬぐい液をとって検査のスライドに加え、反応を見ます。二十分〜三十分位で判定できます。

インフルエンザの治療薬



インフルエンザと決まったらすぐインフルエンザ薬を使います。

①アマンタジン(シンメトレル)症状が出てから二日以内に治療を開始するように使われます。
A型ウイルスに有効、一日二回内服で五日間
副作用、不眠・ふらつき

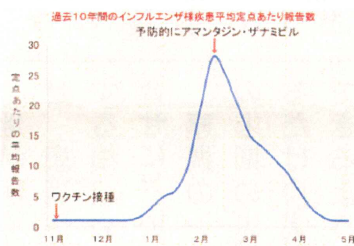
②ザナミビル(リレンザ) A・B型に有効一日二回吸入で五日間使用
副作用ほとんどなし

③オセルタミビル(タミフル) A・B型に有効一日二回服用で五日間使用
副作用 吐き気

流行時期をみて対策を

インフルエンザの流行は、例年十二月の終わり頃から始まり、翌年の二月始め頃に流行のピークを迎え、だいたい三月いっぱいくらいまで続きます。

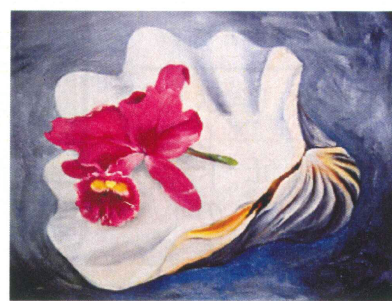
流行のパターンを把握し、それに基づいた対策を実施することが大切です。



①十一月、おそくとも十二月上旬までにインフルエンザワクチン接種を受ける。

②ピーク時には予防的にアマンタジン、ザナミビルを使用する方法もあります。

③高齢者の方で、三十八度以上の熱がでたときには、短期入院をすることも考えます。



花の時 油彩 広川幸子作(中沼在住)

・高齢者(六十五歳以上)に対するインフルエンザワクチン公費接種について

国会審議が遅れたために、各市町の対応が遅れておりますが、足柄上地区では十一月十五日広報通知、十二月一日より実施の予定ですが(早ければ十一月二十日から)まだ未定です。修了は、平成十四年二月末予定とのことです。

自己負担分は、千円です。ワクチン接種によって、十分な抗体価の上昇が得られるまでに、少なくとも二週間が必要で、シーズンが始まる前の十一月頃までに接種を終えておくことが望ましいとされています。

11月・12月の休診日

(日曜・祭日 水曜・土曜・第一火曜午後)

12月29日(土) ~ 1月3日(木) 年末年始
1月4日(金) 午後 休診

E・メールを送って下さい。 norikazu@tecnet.or.jp



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。
☆受け付けからのお願い
月初めには必ず保険証を受け付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。